

研究課題番号	SⅡ-4-1
研究課題名	PRTR データを活用した化学物質の排出管理手法の構築
研究実施期間	令和元年度～令和3年度
研究機関名	国立環境研究所
研究代表者名	小口 正弘

1. 委員の指摘及び提言概要

ライフサイクル全体での PRTR 情報の活用と実際のデータの整合に関して、戦略的な検討を行っており、実際のデータを用いて評価が行われたことは高く評価できる。整合についても詳細に検討が行われ、その差に関する考察も行われ、実践的な改良に資すると考えられた。廃棄物処理施設、下水処理施設での化学物質の排出実態を解明し、現行の PRTR データの正確性の向上をさせるという目標は達成され、PRTR データの活用の有効性を高めた。さらに、下水処理家庭内での物質循環フローから PFOS の生成挙動を明らかにしたことは同様の挙動が推測される物質の推計に寄与すると考えられる。

PRTR で報告される量と、実際の環境で検出される量に乖離がある例として大気 18 物質、大気 6 物質を見出された点は非常に興味深い。今回の不整合物質を精緻に解析して、その原因を明らかにするとともに、現状の PRTR の報告の義務にある濃度下限や問題点（PFOS のみを対象としており前駆体は報告義務から外れていること）を見直していただきたい。同時に、PRTR で排出量を補足できない化学物質に関しては、含有量*使用量を含有量に関わらず報告義務を課したり、過去の排出量を考量するなど PRTR にかわる新たな手法の導入も提言してほしい。

2. 採点結果

評価ランク：S